

令和2年

沖縄全戦没者追悼式

日時：令和2年6月23日（火）午前11時50分～午後0時40分
場所：平和祈念公園（糸満市摩文仁）

沖縄県 沖縄県議会

令和2年沖縄全戦没者追悼式次第

- 1 開式の辞 沖縄県副知事
 - 2 式辞 沖縄県議会議長
 - 3 黙とう
 - 4 追悼のことば 沖縄県遺族連合会会長
 - 5 献花
 - 6 平和宣言 沖縄県知事
 - 7 「平和の詩」朗読
 - 8 メッセージ 内閣総理大臣、広島市長、長崎市長、国際連合代表
 - 9 閉式の辞 沖縄県副知事
- ◆
- 1 総合司会 NHK沖縄放送局アナウンサー
 - 2 手話通訳 沖縄県身体障害者福祉協会登録手話通訳

式 辞

御来賓をはじめ御遺族並びに県民の皆様、「令和2年沖縄全戦没者追悼式」を執り行うに当たり、全ての犠牲者のみ霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、御遺族の皆様から哀惜の意を表します。

ここ沖縄の地や南洋諸島等で多くの県民や県出身者の命が奪われました。

摩文仁の丘で風を感じ、過ぎし75年前に想いを馳せると、戦場に倒れた多くの人々の嘆き悲しみが時空を超えて私の胸へと運ばれてきます。

沖縄には今もなお広大な米軍基地が存在し、度重なる事件・事故により県民は苦しみ続けており、改めて沖縄の過重な基地負担が軽減されることを強く望むものであります。

現在、戦後に生まれた世代が多くを占めるようになり、一般住民を巻き込み地上戦の場となった沖縄、被爆を体験した広島や長崎などの戦争の記憶が私たちの社会から忘却されることが懸念されます。

沖縄県議会はこれまで、県内外の慰霊碑に眠るみ霊に対し、心から哀悼の誠を捧げてまいりました。

奄美大島の宇検村には、対馬丸慰霊之碑が建立され、私個人としては2度訪問し、昨年は、議員9名が参拝いたしました。その他、墓参団としては、昨年が最後となったフィリピン及びサイパン・テニアンでの追悼式に、それぞれ8名の議員が参加いたしました。

遺族の高齢化に伴い、現地での追悼式への渡航者が減少するなど記憶の継承が危惧されておりますが、若者が参加し、犠牲者を悼んでいる姿も見られました。

先日実施された、沖縄県内の高校生を対象とした平和教育に関するアンケート結果では、沖縄戦の学びを「とても大切」、「大切」と答えた生徒が95%に達し、調査開始以来、過去最高となっております。語りべが減少していく中、多くの生徒が沖縄戦を学ぶことを望んでおり、全学校で平和教育の充実を改めて強く願うものであります。

そのような中、県内での教育現場及び地域社会において、平和活動が少しずつ広がりを見せております。その一端として、県内の市町村と宇検村の小中学生は、一昨年から対馬丸事件のことを後世に伝えるための平和学習交流に取り組んでおります。

また、平和につながる身近な社会貢献活動を評価するため「ちゅうちな一草の根平和貢献賞」が新たに設立され、恩納村安富祖中学校など6団体が受賞するなど、今、「語り継ぐ」平和の種が沖縄の地で、新たな取り組みとして芽生え始めております。

憲法第9条においては、「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と規定されております。この「平和主義」の理念の基、戦争の教訓を風化させないためにも、次世代に継承することが私たちに与えられた責務であります。

本日、この式典に当たり、恒久平和を過去から託され、未来へつなぐ使者として、二度と戦争の惨禍を繰り返さないことを20万人余の、み霊の前で固くお誓い申し上げます。

結びに、全てのみ霊の御冥福と御遺族並びに県民の皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げます、式辞といたします。

令和2年6月23日

沖縄県議会議長 新里 米吉

平 和 宣 言

戦争終結75年の節目を迎えようとする今日、私たちは、忌^いまわしい戦争の記憶を風化させない、再び同じ過^{あやま}ちを繰り返さない、繰り返させないため、沖縄戦で得た教訓を正しく次世代に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ・チムグクル」を世界に発信し、共有することを呼びかけます。

戦後、沖縄県民は人権と自治が抑圧された米軍占領下にある中、先人から大切に受け継がれてきた文化を守り、チムグクルを育みながら、復興と発展の道を力強く歩んできました。

しかしながら戦後75年を経た現在もなお、国土面積の約0.6パーセントに米軍専用施設の約70.3パーセントが集中し、米軍人・軍属等による事件・事故や航空機騒音、P F O S^{ビーフォス}による水質汚染等の環境問題は、県民生活に多大な影響を及ぼし続けています。

名護市辺野古で進められている新基地建設の場所である辺野古・大浦湾周辺の海は、絶滅危惧種262種を含む5,300種以上の生物が生息しているホープスポットです。世界自然遺産への登録が待たれるヤンバルの森も生物多様性の宝庫であり、陸と海が連環^{れんかん}するこの沖縄の自然体系そのものが私たちウチナーンチュのかけがえのない財産です。

この自然豊かな海や森を次の世代、またその次の世代に残していくために、今を生きる我々世代が未来を見据え、責任を持って考えることが重要です。

県民の平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に発信し、国際平和の創造に貢献することを目的として、2001年に創設した沖縄平和賞の第1回受賞者であるペシャワール会の中村^{なかむら}哲^{てつ}医師が、昨年の末、アフガニスタンで凶弾に倒れるという突然の悲報がありました。中村先生は人の幸せを「三度のご飯が食べられ、家族と一緒に穏やかに暮らせること」と説き、現地の人々が生きるために河を引き、干からびた大地を緑に変え、武器を農具に持ち換える喜びを身をもって示されました。私たちは、中村先生の「非暴力と無私の奉仕」に共鳴し、その姿から人々が平和に生きることとは何かを学ばせていただきました。

しかし、依然として世界では、地域紛争やテロの脅威にさらされている国や地域があり、貧困、飢餓、差別、人権の抑圧、環境の破壊などの構造的な暴力が横行しています。

さらに、全世界で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、人々の命と生活が脅かされる未曾有の事態にあり、経済活動にも甚大な影響が生じています。この感染症は、病気への恐れが不安を呼び、その不安が差別や偏見を生み出し、社会を分断させるという怖さを秘めています。

だからこそ、世界中の人々がそれぞれの立場や違いを認め合い、協力し、信頼し合うことにより、心穏やかで真に豊かな生活を送ることができるよう、国連が提唱するSDGsの推進をはじめとした人間の安全保障の実現に向け、国際社会が一体となって取り組んでいくことが今こそ重要ではないでしょうか。

ここ平和祈念公園には、国籍や人種の別なく戦争で亡くなった全ての方々の名前を刻む「平和の礎^{いし}」があります。礎^{いし}の前で、刻まれた名前をなぞりながら生きていた証を感じ、いつまでも忘れないとの祈りを寄せる御遺族の姿は、私たちの心に深々と染み入ってきます。

平和の広場の中央には、被爆地広島市の「平和の灯^{ともしび}」と長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火と、沖縄戦最初の米軍の上陸地である座間味村阿嘉島で採取した火を合わせた「平和の火」がともされております。私たちは、人類史上他に類を見ない惨禍を経験されたヒロシマ・ナガサキと平和を願う心を共有し、人類が二度と「黒い雨」や「鉄の暴風」を経験することがないように、心に「平和の火」をともし、尊い誓いを守り続ける決意を新たにします。

そして今こそ全人類の英知を結集して、核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立のため総力をあげてまい進しなければなりません。

く 此りまでい^あに有て一ならん戦争^{いくさゆみ}因に^{あたらぬち}可惜^{うしな}命、^{うしな}失みそ一^{うしな}ちや
かたがた たましー などうなどうー^{くとう}る人々ぬ^{うにげー}魂^{うにげー}が^{うにげー}穏^{うにげー}々^{うにげー}とうなみしえー^{うにげー}る如^{うにげー}御祈^{うにげー}っし、
く さちじやち ゆー^{いくさ}此りから未^{ねー}来^{ねー}ぬ世^{みるくゆー}ねー戦争^{みるくゆー}ぬ無^{みるくゆー}らん弥^{みるくゆー}勒^{みるくゆー}世^{みるくゆー}（平和）^{まに}招^{まに}ち、
うまんちゆ ゆるく みつ あ^{しんていー}御万人^{しんていー}ぬ喜^{しんていー}びぬ満^{しんていー}ち溢^{しんていー}んでいぬなみしえー^{しんていー}し心^{しんていー}底^{しんていー}から^{しんていー}念^{しんていー}願^{しんていー}
っし、^い行^いち^いゆる^い所^い存^いや^いい^いび^いーん。

I pray that the souls of those who lost their lives in past wars may rest in peace. I will continue to pray for peace and happiness in the future of mankind.

本日、慰霊の日に当たり、犠牲になられた全ての^{たま}み^{たま}霊^{たま}に
心から^{あいとう}哀^{まこと}悼^{まこと}の^{まこと}誠^{まこと}を^{まこと}捧^{まこと}げるとともに、私たちは、戦争を風化させないための道のりを真摯に探り、我が国が非核平和国家としての^{きょうじ}矜^{きょうじ}持^{きょうじ}を持ち、世界の人々と手を取り合い、この島が平和交流の拠点となるべく国際平和の実現に貢献する役割を果たしていくために、全身全霊で取り組んでいく決意をここに宣言します。

令和2年6月23日

沖縄県知事 玉城 デニー

（うちなーぐち・英語の訳）

これまでの戦争による犠牲になった人々の魂が安らぎあらんことを祈り、これからの人類の未来には平和と喜びあらんことを祈り続けます。

(第30回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 高等学校の部 最優秀賞)

(令和二年沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品)

あなたがあの時

沖縄県立首里高等学校 三年

高良 朱香音

「懐中電灯を消してください」
一つ、また一つ光が消えていく
真っ暗になったその場所は
まだ昼間だというのに
あまりにも暗い
少し湿った空気を感じながら
私はあの時を想像する

あなたがまだ一人で歩けなかったあの時
あなたの兄は人を殺すことを習った
あなたの姉は学校へ行けなくなった

あなたが走れるようになったあの時
あなたが駆け回るはずだった野原は
真っ赤っか 友だちなんて誰もいない

あなたが青春を奪われたあの時
あなたはもうボロボロ
家族もいない 食べ物もない
ただ真っ暗なこの壕の中で
あなたの見た光は、幻となって消えた。

「はい、ではつけていいですよ」
一つ、また一つ光が増えていく
照らされたその場所は
もう真っ暗ではないというのに
あまりにも暗い
体中にじんわりとかく汗を感じながら
私はあの時を想像する

あなたが声を上げて泣かなかったあの時
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ
あなたは生き延びた

あなたが少女に白旗を持たせたあの時
彼女は真っ直ぐに旗を掲げた
少女は助かった

ありがとう

あなたがあの時
あの人を助けてくれたおかげで
私は今 ここにいる

あなたがあの時
前を見続けてくれたおかげで
この島は今 ここにある

あなたがあの時
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは 知った
永遠に解かれることのない戦争の呪いを
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

「頭、気をつけてね」
外の光が私を包む
真っ暗闇のあの中で
あなたが見つめた希望の光
私は消さない 消させない
梅雨晴れの午後の光を感じながら
私は平和な世界を創造する

あなたがあの時
私を見つめたまっすぐな視線
未来に向けた穏やかな横顔を
私は忘れない
平和を求める仲間として

令和二年沖縄全戦没者追悼式 内閣総理大臣挨拶

令和二年・沖縄全戦没者追悼式が執り行われるに当たり、沖縄戦において、戦場に斃れた御霊、戦禍に遭われ亡くなられた御霊に向かい、謹んで哀悼の誠を捧げます。

先の大戦において、沖縄は、苛烈を極めた地上戦の場となりました。二十万人もの尊い命が無残にも奪われ、沖縄の誇る豊かな海と緑は容赦なく破壊され、焦土と化しました。多くの夢や希望を抱きながら斃れた若者たち、我が子の無事を願いながら息絶えた父や母、平和の礎に刻まれた全ての戦没者の無念を思うとき、胸の潰れる思いです。

今日私たちが享受している平和と繁栄は、沖縄の方々の筆舌に尽くしがたい苦しみ、苦難の歴史の上にあることを、私たちは決して忘れません。沖縄戦から七十五年を迎えた今、そのことを改めて噛み締めながら、静かに頭を垂れたいと思います。

我が国は、戦後一貫し、平和を重んじる国家として、歩みを進めてきました。戦争の惨禍を二度と繰り返さない。この決然たる誓いを貫き、平和で、希望に満ち溢れる世の中を実現する。そのことに今後も不断の努力を重ねていくことを、改めて、御霊にお誓いいたします。

沖縄の方々には、永きにわたり、米軍基地の集中による大きな負担を担っていただいております。この現状は、到底是認できるものではありません。政府として、基地負担の軽減に向け、一つ一つ確実に、結果を出していく決意であります。

返還計画に基づき実現した初の大規模跡地である西普天間住宅地区では、今後の跡地利用の先行事例として、高度な医療・研究機能の拡充や地域医療の向上を目指した健康医療拠点の整備が進められており、今年度から施設の建設に着手します。

引き続き、「できることはすべて行う」との方針の下、沖縄の基地負担軽減に全力を尽くしてまいります。

美しい自然に恵まれ、アジアの玄関口に位置する沖縄の優位性と潜在力は計り知れません。本年三月には、念願の那覇空港第二滑走路の供用も開始しました。現下の新型コロナウイルス感染症による危機を乗り越え、沖縄が「万国津梁」として世界の架け橋となるよう、沖縄の振興をしっかりと前に進めてまいります。また、沖縄の皆さんの誇りとも言える、首里城の復元についても、政府一丸となって全力で取り組んでまいります。

結びに、沖縄の地に眠る御霊の安らかならんこと、御遺族の方々の御平安を、心からお祈りし、私の挨拶といたします。

令和二年六月二十三日
内閣総理大臣 安倍晋三

広島市長挨拶

本日、令和2年沖縄全戦没者追悼式が執り行われるに当たり、広島市民を代表して、犠牲になられた方々の御霊に謹んで追悼の言葉を述べさせていただきます。

ここ沖縄は、先の大戦で、国内で最大の地上戦が繰り広げられ、お年寄りから子供まで数多くの尊い命が奪われました。戦禍の犠牲となられた方々の御無念と御遺族の深い悲しみに思いを致すとき、誠に痛恨の極みであり、哀惜の念を禁じえません。

沖縄の皆様は、戦争の惨禍を経験しながらも、幾多の困難を乗り越え、目覚ましい復興を遂げられるとともに、悲惨な戦争の体験をもとに、平和の尊さを力強く訴え続けておられます。原爆の惨禍を経験した広島も、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という被爆者の切なる願いをもとに、核兵器のない世界恒久平和の実現を訴えてきているところです。

しかし、世界では自国第一主義が台頭し、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高めるなど、私たちの訴えを翻弄するかのとき動きが強まっています。今、私たちが直面している新型コロナウイルスという人類の新たな脅威に立ち向かうためには、世界的な連帯を強めることが何よりも重要であることが明らかになっています。

そのために我々市民は、戦争や核兵器のない状態こそがあるべき姿だということの世界の市民社会の共通の価値観にしていかなければなりません。そして、各国の為政者がそのためにリーダーシップを発揮するよう後押しもしていかなければなりません。

また、戦争終結から75年が経過し、戦争や原爆の悲惨さを自らの体験として語る事ができる人々が少なくなる中、若い世代には、その中心となって、平和を希求する心を確実に引き継いだうえで、戦争や原爆のない世界恒久平和の実現に向けた取組の主演となっていくことが重要になっています。

そのために、広島市と長崎市は、沖縄県の多くの市町村をはじめ世界の164の国と地域の約7,900の加盟都市からなる平和首長会議を設立し、世界恒久平和の実現に向けた取組を進めているところです。平和を愛する沖縄の皆様には、今後、世界の市民社会の連帯をさらに広げ、国際世論の醸成・拡大に向けた大きな潮流をつくっていくために、是非、私達と共に力を尽くして行動してくださることを期待しています。

終わりに、戦没者の方々の御霊の安らかならんこととお祈り申し上げますとともに、御遺族並びに御参列の皆様のお健勝と御多幸を祈念いたしまして、私の追悼の言葉といたします。

令和2年(2020年)6月23日
広島市長 松井一寛

長崎市長 あいさつ

戦後75年の節目となる今年、令和2年沖縄全戦没者追悼式が執り行われるにあたり、被爆地長崎から、長崎市民を代表して、謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

沖縄県は、先の大戦において、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦の場となり、多くの尊い命がその犠牲となりました。その惨禍を乗り越え、県民力を合わせて郷土を復興し、現在の沖縄県をつくり上げてこられたことに対し心からの敬意を表します。

そして沖縄戦と広島、長崎への原爆投下から4分の3世紀が過ぎた今、私たちの暮らしが、戦争で失われた多くの皆様の犠牲の上にあることに、改めて思いを馳せずにはられません。

沖縄戦で亡くなられた犠牲者は20万人あまり。原爆投下によってその年のうちに亡くなられた広島と長崎の犠牲者21万人とほぼ同じです。

沖縄と広島、長崎には、いくつもの共通点があります。

戦争の最後の年に、想像もしなかった惨劇が起きて、子どもたちや女性を含め、罪のない市井の人たちが数多く命を落としたこと。目の前で繰り広げられた残酷すぎる光景は今も、残された人たちの心の傷となっていること。

そして、その体験から、「こんなつらい思いを、ほかの誰にも、二度とさせてはならない」という平和への思いを強く持つようになったこと。

その思いを形にするために、体験者の方々は、忘れたいという心の中のかさぶたを剥ぎ、心の中に血を流しながら、つらい記憶を引き出して、何があったのかを語り続けてきてくれました。それは、体験した世代から未来の人たちへの伝言であり、時間の流れの中で記憶を風化させてしまいがちな人間社会への警告でもあります。

そしてもう一つ、忘れてならない共通点は、沖縄と広島、長崎の経

験は戦争が生み出したものである、という事実です。この経験をもとに、私たちは二度と戦争をしないと誓い、日本国憲法の柱として平和主義を据えました。それは永遠に変わることのない不変の真理です。

長崎と沖縄の子どもたちが、互いの地で交流しながら、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び合う活動は20年以上続いています。これからも沖縄と被爆地は、ともに励まし合い、ともに学びながら、消えることのない戦争の記憶を伝え続けるとともに、市民社会の願いである平和の文化を、たゆみなく社会に根付かせていきましょう。

最後に、謹んで、戦没者の御霊の安らかならんこととお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆様方の御健勝と御多幸を心から祈念いたしまして、長崎市民を代表しての追悼の言葉とさせていただきます。

令和2年6月23日

長崎市長 田上 富久

2020年（令和2年）沖縄全戦没者追悼式 国連軍縮担当上級代表挨拶

令和2年沖縄全戦没者追悼式が挙行されるに当たり、すべての戦没者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、ご遺族の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

先の大戦において、ここ沖縄では、「鉄の暴風」と呼ばれるような想像を絶する激しい地上戦が行われました。美しい自然や貴重な文化遺産が容赦なく破壊され、日本・連合国双方合わせて二十万人を超える尊い命が失われました。以前、家族で訪れ「平和の礎」に刻まれているすべての戦没者お一人お一人のお名前を拝見し、それぞれの生と死を想像して深い悲しみが心にこみ上げたことを、今日あらためて思い出しています。

昨年10月31日、偶然出張で東京におりました私は、首里城が炎につつまれ、正殿が全焼したニュースに絶句し、涙を流しました。沖縄の心の拠り所であった首里城を再び甦らせるための沖縄県民の熱意とご努力に、私は称賛の拍手を送りますとともに、再建が一刻も早く実現しますよう心から祈念いたします。

沖縄戦が終わって間もない1945年6月26日、サンフランシスコに集まった50か国の代表が国際連合憲章に署名し、戦後の国際平和の礎となる国際連合を設立しました。その憲章の前文にあるように、国際連合は「二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う」ために設立され、戦後75年間、一貫して国際協調の中心として世界平和の維持と繁栄のために幅広い活動に取り組んできました。

しかし、沖縄戦から75年経った今、大国間の緊張が高まり、新たな冷戦とも言われるほど国際安全保障環境は悪化しています。新型コロナウイルス危機、気候変動、持続可能な開発など地球規模の課題の解決に向けさらなる多国間の協調が求められる一方、国際関係は多極化・複雑化し、国際的な規範や枠組みが軽視される傾向がみられます。そして、国家間の信頼はますます弱まり、国際社会は台頭する一国至上主義の波に揺り動かされています。

このような状況の下、今は軍縮を追求する時ではないという声を時々耳にします。しかし、冷戦期以来の悪化した安全保障環境にある今こそ、軍縮への取り組みが必要であると私たちは考えています。なぜなら、軍縮は、国家間の信頼を醸成し、対話と交渉、そして規則に基づく予測可能で安定した国際関係を維持するための重要なツールであるからです。

今年、終戦そして国連設立 75 周年の重要な節目の年です。沖縄戦の犠牲者の方々が経験された想像を超える苦難を二度と繰り返さないためにも、国際社会は一丸となって国際平和と安全保障の維持に取り組まなければなりません。グテーレス事務総長を始め、国連で働く私たちはこの絶え間ない努力を皆さまとともに続けていく覚悟です。

今日、私は平和のための努力に、多くの若い人たちが積極的に参加して下さるように特に呼びかけたいと思います。彼らは、将来の地球を担い、世界に変革をもたらす究極の力です。沖縄戦の惨害を乗り越え、戦後の復興と平和の実現に命を捧げてきた沖縄の皆さまの熱意と功績を若い世代に伝え、国際平和の維持と促進に努めることが、この地で亡くなったすべての方々への大切な供養ではないでしょうか。

結びに、戦没者の御霊の安らかならんことを心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様の御平安を祈念いたしまして、私の追悼の言葉といたします。

2020 年（令和 2 年）6 月 23 日

ニューヨーク国際連合本部より

国際連合事務次長・軍縮担当上級代表

中満 泉